

Aグループ

<メンバー>

# 【授業の進め方について】の意見

1 予習、復習をやる気になる授業。

- ・復習の方がやる気になる。ハードルが低い。
- ・数秒でも前回の話をしてくれると内容が入りやすい。

2 小テストを行う(評価に入れるかどうか)

- ・やらないきゃいけないという気持ちになる。
- ・前回の内容を次回の授業のはじめに小テスト(復習)
- ・授業の後の方が満足度あり。

3. 人数が多くても個人が参加しやすい授業
- ・質問がないだろうと授業を進める人も
  - ・2択でも手があがらない。

# 項目毎の具体的な方策

1. 予習復習をやる気になる授業。

- ・予習のガイドライン

- ・シラバスを授業のはじめに配布

- ・反転授業を行う→人数がおおくても個人が参加しやすい授業にもつながる

1教科取り入れるだけでも、モチベーションの向上に繋がる。半期に1回でも

薬剤師となった時にどのように役立つかかわ  
かるとモチベーションが上がる  
→モチベーションが上がるような、医療現場  
を意識できるような講義を、毎年まぜる(カリ  
キュラム)

## <小テスト>

目的として予習・復習をやらないといけないという意識になる。

### やり方

- ・次回に持ち越して小テストを行う
  - 復習の意識が定着する
- ・講義の最後に行う
  - できたことへの満足度が高まる

## <課題の理解度の確認方法>

- ・小テスト(平常点評価に加える30%程度)
- ・発表(発表しなくても当たるかもしれないという意識があれば、やれる。ただし、先生は嫌われる、、、。)

発表の一つの方法として、反転授業もあり。



Bグループ

メンバー

# 【カリキュラムについて】の意見

- 1 学習するモチベーションをアップさせるためのカリキュラム
- 2 実習(基礎、実務)をより実践的に
- 3 国家試験やCBT対策

# カリキュラムについて

## 1. モチベーションアップのためのカリキュラム

★科目の時期・内容の検討(1年に専門を降ろす)

★体験型の科目、講演

(現場の先生や上級生の体験談、座談会)

★薬や薬剤師との関連づけ

⇒早期体験学習や、現場の薬剤師による  
授業(1年生の4~6月にやるのもいいが、  
1年後期や2年・3年にも)

⇒将来の薬剤師像をイメージできる  
(職種や、薬の開発の経緯など)

# 1. モチベーションアップのためのカリキュラム(2)

## ★成績優秀者による自主ゼミの開催

## 2. 学内実習をより実践的に

★OSCEの患者対応の実習は現場で役立たないことも多いので、より実践的な・さまざまなシチュエーションでの実習を行う。

★一般名と商品名を覚えることを4年から始める。

★処方意図や副作用・相互作用がわかるような処方解析演習をもっともっとう行う。

★実務実習前に勉強しておくいいことを5、6年生の人から聞きたい。

### 3. 国家試験やCBT対策

★国家試験の全体像を2年で説明

(問題集配布)

★繰り返し脅す

Cグループ

メンバー

# 【試験について】の意見

- 1 試験の解答・正当の開示
- 2 試験の問題構成
- 3 解説講義の開催
- 4 授業内で小テストを行う
- 5 答案用紙の開示
- 6 試験形態(記述、マーク)
- 7
- 8
- 9

# 項目毎の具体的な方策

## 1. 試験の解答・正当の開示

★解答の提示位置を現在の掲示板、各講義室前から統一した位置に掲示してほしい

★インターネット上で解答を掲示してほしい

## 2. 試験の問題構成

★簡単な問題と勉強していれば解ける問題、考え方がしっかりしていないと解答を導き出せない問題の配分を例えば1:8:1のようにしてほしい

★問題が国家試験の出題頻度に準じている

★語句解説の記述問題は解答欄を広くしてほしい

### 3. 解説講義の開催

- ★正答率が悪かった問題について解説
- ★記述の解説の場合はキーワードや個人の文章について言及してほしい
- ★再試対策、出席者の理解の確認になる

## 4. 授業内で小テストを行う

★予習復習が進む

★成績に反映されると、授業への出席率が下がる場合がある

## 5. 答案用紙の開示

★記述の解答がどういった基準で採点されたのか知りたい

★どの範囲があまり解けていなかったのか知りたい

## 6. 試験形態

### ★記述:

生徒の学習成果が見せられるが、文章にするのが難しい

解答としてどこまで書けばいいのかわからない

### ★マークシート:

どこが誤りかわかりやすいため学習しやすい  
勘で解ける

Dグループ

メンバー

# 【試験について】の意見

- 1 継続的試験勉強
- 2 国家試験を意識した定期試験レベル
- 3 採点基準不明
- 4 webサイトの利便性改善
- 5 出席点の存在
- 6 特に不満なし
- 7
- 8
- 9

# 項目毎の具体的な方策

## 1. 継続的試験勉強

★ 中間実力確認試験の実施

★ 3回(2割+2割+6割)

★

## 2. 国家試験を意識した定期試験レベル

★国家試験問題を交える

★1割程度、全科目(記述マークシート問わず)

★

### 3. 採点基準不明

★解説講義

★採点基準の明示

★模範解答

# Eグループ

メンバー

# 【授業の進め方について】の意見

- 1 講義環境
- 2 教科書、プリント
- 3 講義内容

# 項目毎の具体的な方策

## 1 学内

- 講義時間が短い(30分程度で終了してしまう)
- 板書だけは困る(プリントだけでも困る)
- 板書が見えない(角度、反射)
- すぐに消される
  - (先に書いたものから消してほしい)
  - (板書後、説明する時間と書き写す時間を分けては)
- 国試対策だけでよいか(これ以外の学問も必要)
- 環境整備
  - (座席指定～低学年は指定、高学年は自由など)
  - (出欠管理～入退室のカード管理)

## 学外

- 授業開始時間を学部で分ける  
（通学電車の混雑の改善）
- 昼休み時間を学部で分ける  
（昼食時間と場所の確保）
- JR、バス交通機関の整備  
（ルール）

## 2. 教科書、プリント

- ・教科書の使い方
- ・重い(軽い教科書が出来ないのか)
- ・科目ごとにプリントの作り方を統一  
(4~6スライド/枚)
- ・図や表を取り入れてほしい(文字だけでは気力が低下)
- ・メディアツールの利用は不人気  
(web問題の利便性~要JR改善)  
(印刷に不備あり)

# 3. 講義内容

- 考える力を育てる教育をしろ(講義、実習)
- 興味をもたせろ
- 質問を投げかけろ
- 勉強の仕方を教えろ
- 試験問題にも問題があるぞ